

地球の変化を追跡

環境 コース

松江気象台を訪ね、気象観測機器など設備を見学した。その後、田代照政・吉原範行さんから、気象庁の仕事や、環境カレッジに合わせた地球と島根の気象変動について話しを聞いた。



松江地方気象台。建物の周りには多くの標準木がある。写真中央は梅の標準木

松江気象台

湿度、気圧、風向を測定している。この観測は日本で16か所、世界で約900か所同時刻に一齐に実施されているもの。中国地方では松江気象台だけがやっている。

気象台の建物の周りには、桜、椿、タンポポ、ススキなどいろいろな草木の標準木があり、季節の訪れはここから発表される。鳥も同様で、今年は鶯の初鳴きが観測されなかったとのこと。

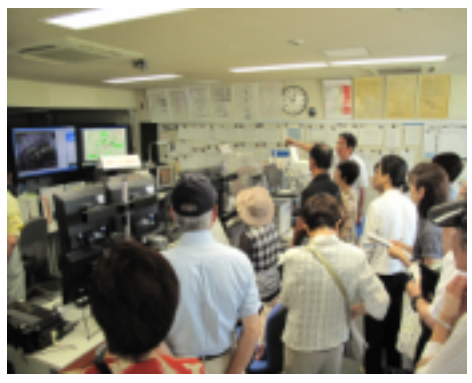
講義では、地球規模と島根の気候変動について話があった。

松江も春夏秋冬いずれの季節も気温は上昇している。データ上、真夏日日数は横ばいだが、熱帯夜は増加傾向で、冬日は減少傾向にあると説明された。年間降水量は減少傾向だが、一度に100mm以上の降水量の日数が増加傾向にある。松江の霧の日は減少し、植物

はじめに施設内を見学し、測定機器の種類や測定方法の説明を受けた。今は全て自動化で降雨量や降雪量が計測され、各気象台に集積される。観測データを管理する部屋は意外に狭く、モニターが並ぶ中で仕事が進んでいる。気象庁の仕事は、気象の予測と観測、地震、津波、火山の対応、地球環境、気候の対応。内容は幅広く、長期にわたるデータ収集、分析、各国と協力し、地球規模での管理を続けているとのこと。



高層観測気球が発射された瞬間。毎日2回行われる高層観測は、気球を発射し上空30kmまでの気温、



刻々と観測機器のデータが送られてくる制御室。多くのモニターが並ぶ

は早い春化と遅い秋化傾向にあるという。今後は、全国的には米の品質低下や熱ストレスによる死亡リスクの増加、感染症媒介生物の分布拡大が予想されるという。説明した吉原さんは、「温室効果ガスの緩和策と適応策の両方を実施して行くことが必要だ」と語り、受講生は自分でできる温暖化対策をもっと真剣に取り組まなければと話していた。(備谷・須田)

シニアいきがい コース

個人のニーズに合わせた学習スタイルが選択できる放送大学。テレビ、ラジオで遠隔教育を行う通信制大学の学習体験をした。

現在は全国で約8万3000人、島根県で約6000人が学んでいるという。学生は全科履修生になって学位取得もできるし、選科履修生になって、自分の学びたい科目だけを選択することもできる。センターでは、放送の再視聴もできるし、DVD、図書の閲覧、貸し出しもできる。受講生は放送大学の設備を自営し、DVD視聴体験したり、実際にやられていく講義をスクリーンで体験した。

見学に先立ち、放送大学の春日教授から「環境問題」に

関する講義を直接受けた。3・11を受けて、講義内容を変更し、「地球温暖化」と「原発と環境問題」について聞いた。温暖化のメカニズムや現状、今後のエネルギー対策、そして福島で何が起きているのか詳しく解説し、最後に「専門家、政治家まかせでなく、私たち自身が科学的基礎教養を身につけ、判断しなければならぬ」と結んだ。

複雑化する地球環境問題や自然災害への対応など、生涯学習の大きなテーマになりつつある。(日野)



ふるさと発見 コース

Ruby(以下ルビーと呼称)はコンピュータプログラミング言語で、松江市在住のまつもとゆきひろ氏によって1993年に開発された。7月に完成したので誕生石のルビーと命名した。



島大の野田哲夫教授から、ルビーの特長や社会的価値について講義を受けた。

野田さん 特筆すべきは、ルビーに特許制約が無く誰でも無償で使えるということ。自由に利用でき、改良できる。ただし改良したら設計図を必ず公開することになっている。また、ルビーのプログラミング

世界へ輝く Ruby

グ言語は他の言語より短くて簡単。このことでより優れたものとなり世界中に広がっている。世界で約70人のシステムエンジニアが、ルビーの改良に取り組んでいる。

ルビーの応用例は人工知能、遺伝子構造の解析、気象情報処理やNASAでのデータ分析など様々な最先端の分野にわたる。楽天市場や島根県のHPもルビーで作成されている。今後はさまざまなプログラミング言語の組み合わせに、ルビーも混ぜ合わせて開発することが重要だと野田さんは結んだ。

そして2009年から、ルビーの世界大会がくまびぎメッセで開催され、今年も1000人近い研究者達が集結した。松江から発信したプログラミング言語ルビーは、今や世界中に広がっている。(山口)

長生きする秘訣とは

シニアコース

健康で長生きするためには！島大名誉教授・瀬戸武司さんから、医学と精神の両面からの秘訣を聞いた。

寿命が延び、百歳以上の人は4万人を超えている。その中で、自立している人は17%、さらに認知症でない人は20%、施設・病院で過ごす人43%という。

一方老化を遅らせるための研究も画期的に進み、TVでも話題となった、長寿遺伝子サーチュインが食事制限(カロリー制限)によって、動脈硬化、高血圧、認知症、骨粗しょう症、等の老化症状を抑えることがわかった。昔から言われる腹八分目が健康長寿のもと。

瀬戸さんはよりよく生きるために流行っている婚活、就活のように積極的に地域社会と関わり活動的に暮らす「終活」を勧める。老人性認知症の9割までが感動の乏しい情性的生活によって引き起こされるのだという。

「終活」すれば認知症も予防できる。

また笑いはNK細胞が活性化することで、愉快に

健康で長生きの秘訣を語る瀬戸さん

過す人ほど長生きというデータも報告されている。健康な老人であるためには、よく噛む(一口30回)習慣も大切だ。最後に瀬戸さんは長生きのために「老いは忘るべし、老いを忘れるべからず」と結んだ。(米井)



健康で長生きの秘訣を語る瀬戸さん

サポーターの会

東日本大震災募金

入学式の時に、受講生の皆さまにご協力いただきました募金は、総額で32,360円でした。これに、6月25日に実施したバザーの収益金の一部、10,000円を加え、合計42,360円を山陰中央新報社を通して寄付を致しました。皆さまのご協力ありがとうございました。



7月25日「まつえ市民大学」としての募金を手渡す河上会長

ティータイム

「シニアいきがいコース」のボランティア活動、「ふるさとづくりコース」の地域活性化に向けたワークショップ活動がともに佳境に入ってきた。昨年のワークショップ「松江夜曲」は33チームが参加するイベントとなり、一昨年の水燈路「行灯づくりの店」は今年も3年連続で開店する。継続している「シャッター押し」の活動は観光客に喜ばれている。街づくりは地元民の行動力がポイント。大森の松場さんの言う足元の宝、地域力を生かした市民大学からの発信。今年は何が生まれるか、そろそろ見えてきた。(W)

編集担当まつえ市民大学レポート) 新規加入者 大田万里子・坂本佐問い合わせ先 松江市民活動センター まつえ市民大学事務局 Tel: 08552(32)08994 Fax: 08552(32)08447 メールアドレス mcu@city.matsue.ig.jp